



災害に備え電気設備

電気工事業協同組合と協定締結

西北五地区電気工事業協同組合(理事長・新谷良昭)が7月15日(金)、町長室を訪れ「災害時における電気設備等の応急復旧活動に関する協定」の締結式を行いました。

この協定は西北五地区電気工事業協同組合より、災害などが発生した場合の避難所である指定避難所や指定緊急避難場所、また防災の活動拠点とされる公共施設などの電気設備の機能確保と回復のための応急復旧活動につ

いて、提案があり行われました。町長から「我々が気づくべきところに気づいていただきありがとうございます。これからもよろしくお願いします」と感謝の言葉を伝えました。

徐福研究に尽力

中国徐福会から表彰状

小泊地域の下前に伝わる徐福伝説を研究してきた柳澤良知氏が、7月5日(火)役場を訪問し、小野町長に中国徐福会から表彰状を受賞したことを報告しました。長年に渡る徐福文化の研究や伝承が突出した業績と認められ、今回の中国徐福文化貢献賞を受賞したそうです。

小野町長は「海外からも認められたことはすばらしい。これからも研究や伝承を続けて行ってほしい」と激励しました。柳澤氏は「自分の研究が認められてうれしい。これからも徐福伝説を追い続けたい」と意気込んでいました。



ヘイズ先生お疲れさまでした

小泊地域ALTが帰国

小泊地域を担当するALTのジェイムズ・ヘイズ先生が、7月25日(月)に小野町長を訪問し帰国の報告をしました。

ヘイズ先生は5年間ALTとして勤務し、小泊地域で小中学校だけでなく、こども園などの英語教育に携わってきました。

ヘイズ先生は「5年間あっという間でした。中泊町が大好きなのでいつかまた訪れたい」と話し、町長は「5年間ありがとうございました。いつでも遊びに来てください」と感謝の言葉を伝えました。



全国大会での活躍誓う

中里ジュニアクラブが全国大会へ

6月26日(日)に行われた青森県陸上競技交流大会で男子4×100mリレーで1位となり、全国大会を決めたメンバー5人が、7月28日(木)小野町長を訪問しました。松谷温翔(中里小6年)、小野倅太郎(中里小6年)、坂田陽(中里小6年)、外崎隼矢(中里小5年)、成田来河(中里小5年)が訪れ、町長に大会の報告と全国大会の目標を伝えました。キャプテンの松谷くんは「全国大会でチームベストを更新できるようにがんばりたい」と意気込みを伝えました。これに対して、小野町長は「良く予選を突破しました。全国大会では、強い選手に動揺することなく堂々とがんばってほしい」と激励しました。

また、選手達は昨年に引き続き、函館市で行われる大会へ県の代表として招待されています。



日頃の感謝の気持ちを込めて

「ピュア」オープン3周年記念イベント

町 農産物加工販売施設ピュアがオープン3周年を迎え、6月25日(土)、26日(日)の2日間、記念イベントを開催しました。今年は、町内のこども園の園児らによるダンス披露で始まりました。強い風に押されながらも一生懸命に踊る姿に会場からは大きな拍手が送られました。最後はみんな一緒にダンスを踊り、会場を盛り上げました。次に行われた力自慢綱引競技でも園児たちはがんばっていました。お昼が近づくと、メバル膳の1周年記念イベントとしてメバルクイズ大会が行われ、見事最後まで○×クイズに正解した人には、メバル膳のペアお食事券などが贈られました。その後は、振る舞いコーナーを設置し、メバル汁を来場者に振る舞いました。来場者らは「メバル汁が美味しかった。メバル膳のお食事券ももらったので、ぜひ食べて帰りたい」と話していました。



雨の中でも大奮闘

町民大運動会

教 育委員会が主催する町民大運動会が6月26日(日)に開催されました。昨年は大雨により中止になった町民大運動会ですが、今年も雨模様となりました。開会式が終わると雨が降り始めたため、安全を考慮し、障害物競走から行われました。びん転がし競争では、予想外の方向に転がるペットボトルに苦戦しながらもゴールを目指していました。大豆大輸送では、大豆をつかむのに苦労しているALTのマイケル先生に声援が送られていました。ゲートボール競争では、雨が強くなる中ねらいを定めて集中してボールを打っていました。雨の影響で今年は3種目のみとなりましたが、参加した住民は「中止は残念だが仕方がない。来年こそは優勝を目指したい」と話していました。

災害時に備えて訓練

中里赤十字奉仕団が炊き出し訓練

中 泊町分区中里赤十字奉仕団(委員長・外崎義信)が、6月28日(火)中央公民館で炊き出し訓練を行いました。この日は日赤青森支部から小田川氏を講師に招き、非常災害食としてハイゼックスという米1合用の袋に米と水を入れ、大きな釜でごはんを炊きあげる作業を学びました。講師の指導のもと、袋詰めしゴム止め、できあがった袋を大きな釜に入れました。炊きあがるまでは、町の消防防災係から自主防災の説明を受けました。ご飯が炊きあがると、婦人会が作ったカレーと一緒に試食しました。参加した団員は「思っていたよりもおいしい。災害で避難したときに役立てられれば」と話していました。



正しい歯の磨き方を覚えよう

小泊小学校で歯科健康教育



小 泊保健センターが子どもたちの歯の健康を守るために毎年行っている歯科健康教育が6月29日(水)、小泊小学校で行われました。県歯科衛生士会の相馬美智子先生を講師に、午前中は5年生に歯の磨き方でう歯も歯肉炎も予防できることを説明したあと、正しい歯の磨き方を指導しました。午後は、1年生の親子を対象に、仕上げ磨きの重要性を説明したあと、歯磨きの指導を行いました。児童は「今日から教えてもらった歯の磨き方をして、むし歯にならないようにしたいです」と話していました。



地域で立ち直りを支える

社会を明るくする運動

66回目を迎えた社会を明るくする運動は、犯罪や非行防止などを目的にそれぞれが力を合わせて行われる全国的な運動です。7月4日(月)に保護司会と更生保護女性会合わせて28人が参加、町内パレードに先立って保護司会の2人が総理大臣と県推進委員長の県知事のメッセージを読み上げて町長に伝達して協力を求めました。町長からは「朝早くから

活動ご苦労様です。皆さんの活躍によって当町は無事平穏に過ごせている。この後のパレードもよろしくお願います」と話しました。パレード一行は、このあと町内12施設を巡回し、この運動をPRしました。

「当たり前」からの開放!!

こども園で子育て支援講演会

弘前大学生涯学習教育研究センター主催の子育て支援講演会が、6月6日(月)こども園こどもで、6月28日(火)なかさこども園で行われました。『「当たり前」からの開放!世界から見た日本の子育て』と題し、弘前大学の飯野先生を講師に、世界の子育てや保育、夜泣きの仕組み、ホルモンバランスの仕組みが分かりやすく解説され、参加者らは真剣な表情で聴いていました。参加者からは、「インドネシアの子どもの喫煙に驚いた」「なぜ子どもが夜泣きするのかわかった」「世界にはいろいろな保育があってびっくりした」と当たり前と思っていたことが覆り驚いていた様子でした。



みんなで音を楽しむ

町小学校芸術鑑賞会

7月12日(火)町総合文化センターパルナスで、町小学校芸術鑑賞会が開催されました。この日は、管内4小学校から全校児童が集まりました。今年は、普段は個人で活動しているアーティストが特別に集合してくださいました。第一部はアニメなど子どもたちがしている歌を中心に歌いました。となりのトトロのエンディングテーマ「さんぽ」は、会場のみんで歌い楽しみました。児童らは「この歌してる。この歌好き」と話していました。

第二部は、各学校から1人ずつ選ばれ、カホンという打楽器を演奏しました。練習をしたあと、会場のみんどの手拍子と一緒に曲を演奏していました。演奏に挑戦した児童は「思っていたよりも難しかったけど、みんなと一緒に演奏できて楽しかったです」と笑顔で話していました。



地元小学生も健闘

第11回津軽地区小学生卓球選手権大会

練習の成果を試す卓球大会が、7月3日(日)町体育センターで行われ、中里クラブや武田小学校、小泊小学校の地元小学生をはじめ、交流のある六ヶ所村や津軽地区を中心に200人を超える選手たちが参加しました。試合が始まると、子どもたちは真剣な表情で1球1球集中し、日頃の練習の成果を発揮していました。ポイントが決まるとガッツポーズや大きなかけ声が会場に響いていました。



思い思いの色づかいで

公民館で金魚ねぶた作り

今年も町中央公民館で金魚ねぶたづくりが行われ、子供からお年寄りまで14人が参加しました。金魚ねぶたづくりは、7月26日(火)から28日(木)の3日間行われ、参加者は真剣な表情で作成に取り組んでいました。

初めて作成した人が多く、紙の貼り付けや切断に苦労していましたが、色づけになると自分の好きな色をつけて素敵な金魚に仕上げていました。

参加者からは「難しかったけど楽しかった。来年もまた参加したい」「扇ねぶたもつくつきたい」という声があり、講師の鍋田元さんは公民館の講座がより充実したものになって貰いたいとおっしゃっていました。



地域の上下水道を学ぶ

薄市小5年ふるさと学習

薄市小5年生10人が7月15日(金)、町や学校周辺の上下水道の状況を学びました。上水道については、町浄水場を見学し、中里地域はダムではなく地下水を活用しているなど職員の説明を受けました。

続いて、豊岡の下水処理場に移動し、設備の説明や町の下水道の整備状況などの説明を受けました。児童らは「普段飲んでいる水が地下水だとわかっておどろいた。排水がどこに行くのか勉強になった」と話していました。

海を眺めながらナイスショット

北光寿大学がグラウンドゴルフ大会

小泊地域で活動する北光寿大学の聴講生21人が、7月20日(木)に小泊マリンパーク内でグラウンドゴルフ大会を行いました。この日は天気が良く、青い空と青い海に囲まれて聴講生らは気持ちよくゴルフを楽しんでいました。4人1組になり、みんなで「ナイスショット!」と声をかけあいながら各コースを回りました。

参加した聴講生は「気持ちのいい汗をかいた。また来年もやりたい。次は1位を目指したい」と話していました。

結果は次のとおりです。1位・尾崎文代さん 2位・伊藤洋子さん 3位・角田美保子さん



プール開き!!

B&G中里海洋センターオープン

B & G中里海洋センターが、7月1日(金)オープンし、授業を終えた小学生たちが初泳ぎを楽しみました。

プール開きのこの日は、天気も良く暑い日となり、待ち兼ねた子どもたち約50人が、泳いだり、浮き輪やビーチボールなどで遊んだりしてそれぞれ楽しんでいました。プールは9月11日(日)まで楽しめるそうです。



防除作業の安全を祈願

航空防除安全祈願祭

航空防除作業を行っている(中)中里エアサービスと中里航空防除組合が、6月25日(土)にピュア隣の町集出荷予冷施設倉庫内で、防除用ヘリコプターによる作業前安全祈願祭を行いました。晴天となったこの日はオペレーターらが参加。作業に使用するヘリコプターを前にして順番に玉串を捧げ、真剣な面持ちで今期作業の安全を祈りました。航空防除作業は7月下旬から9月上旬まで、町内外の水田や大豆畑で行われるとのことでした。

安全運転をお願いします！

グループホームさくら利用者が呼びかけ

グループホームさくら利用者が、7月25日(月)奈良建材店前交差点で、通行するドライバーたちに交通安全を呼びかけました。この日は亀の形をした手づくりグッズのほか、交通安全のチラシ、ポケットティッシュを配布しました。ドライバーたちは、「ご苦労様、ありがとうございます。安全運転します」などと利用者に声をかけていました。



地元への理解深める

小泊中1年がふるさと学習

講演や実習を通して、地元小泊への理解・興味を深めようと小泊中学校1年生がふるさと学習を行いました。6月29日(水)は、小泊中学校で柳澤良知氏を講師に、小泊に関係ある徐福や太宰治、松尾芭蕉の講義を受けました。生徒たちは「徐福や太宰治は、像を見たことはあるが、どういう人なのか知ることができ勉強になった」と話していました。7月15日(金)は、小泊漁協の製氷庫を見学し、鯨ヶ沢漁港事務所職員から小泊の漁業に関する講義を受けました。生徒たちは、真剣な表情で講義を聴き、地元産業への理解を深めていました。その後学校へ移動して、漁協婦人部の指導のもと、サザエ入りカレーづくりをしました。慣れない手つきながらも一生懸命に協力しカレーを作り、全員で試食しました。サザエの風味がきいたカレーを味わった生徒は「おいしい、おいしい」とおかわりしていました。



迅速な対応、連携強化を図る

小泊漁港で海難救助訓練

海難事故発生時の迅速な対応・連携の強化を目的に中泊町沿岸訓練実施隊が6月24日(金)小泊漁港で海難救助訓練を実施しました。開会では、同隊の成田代表が「幸い小泊地域で悲惨な事故は起きていないが、事故はいつ起こるか分からない。この訓練がそのときに活かされることを期待しています」とあいさつしました。この日の訓練は、船舶の衝突事故で、海中転落事故と火災事故が起きたという設定で行われました。漂流者の救出訓練では、こども園こどもりの子どもたちが心配そうに見守る中、海中に転落した乗組員2人を引き上げ、救助しました。その後、船舶火災消火訓練では、煙があがる船に向かって放水訓練を行うと子どもたちからは歓声が上がっていました。また、漁協職員や婦人部による応急手当訓練、AEDを使用した心肺蘇生法、救命胴衣着用推進宣言し、安全操業への意識向上を図りました。

